

まちの話題

「はさまじ里山の森」誕生

住民らが芝生を植えて都市との交流

6月19日、養父市と地元のはさまじ峠活性化協議会(小山紀世人会長が協働で公園化整備を進めている県立畜産試験場但馬分場跡地(養父市堀畑)で芝生の植え付け作業が行われ、地元住民と阪神間からのボランティア約120人を含む約270人が汗を流しました。この公園は、グラウンドゴルフを楽しめる芝生公園や花々を鑑賞できる里山などを整備する予定で、平成25年度中の完成を目指して整備を進めています。

植え付け作業後は、地元住民とボランティアらが食事会で交流を

「せきのみやふれあいまつり」を開催

昨年末にスタートした、関宮まちづくり協議会(中尾勇会長)が、6月27日、関宮増進施設体育館で「まちづくりふれあいまつり」を開催し、関宮地区住民約400人が参加しました。

このイベントは、これから5年後、10年後にかけがえのない地域になるよう同協議会を取り組んでおり、その足がかりとして、

まず区民の絆を強めようと開催したものです。

当日は、関宮小学校の金管バンドの演奏や、養父市出身の歌手・浜千代子さんの歌謡ショーなどが行われました。また、地区別対抗の玉入れ合戦では、子どもからお年寄りまで参加し、心地よい汗を流しました。

参加した区民は「今日は蒸し暑かったけど、同じ校区の人と触れ合え、楽しい時間を過ごせました」と話してくれました。



まつり最後のプログラムの餅まきで盛り上がる参加者



芝生の植え付け作業に汗を流す参加者たち

植えました。同協議会の小山紀世人会長は「跡地を有効活用したい」という思いが形になりつつあり、今後、都市部との交流の拠点になればうれしい」と話してくれました。

また、この日は、公募していた公園の名称も発表され「はさまじ里山の森」と決まりました。

第2回養父市消防団水防工法訓練

6月27日、養父市水防工法訓練が、養父地域局前の河川敷で行われ、副分団長以上の幹部団員約170人が参加し、積み土のう工法やシート張り工法など4種類の工法の訓練を行いました。

団員は、それぞれの工法について説明を受けた後、手順をしっかりと確認しながら作業に取り組んでいました。

浄慶康治消防団長は「初めて参加した団員も多かったが、

しっかり訓練できました。今回学んだ工法を、それぞれの分団でしっかり伝えてほしい」と話されました。また、参加した団員も「日ごろは行わない訓練だったのでいい勉強になりました」と話していました。



シート張り工法の手順を教わる消防団員

暮らしの情報

「暮らしの便利帳」を発行します

市民生活に必要な情報を官民協働で届けます

市では、市民生活に必要な情報をまとめて掲載する、養父市「暮らしの便利帳」を製作し、市民の利便性の向上を図ることにしました。

この「暮らしの便利帳」は、行政情報（福祉、防災、戸籍や税金の手続きなど）に加え、医療機関などの地域情報、市内の観光地、文化財など、身近な情報の他、事業所などの広告を掲載することで、実用性の高いものとなります。発行にあたっては、市と株式会社サイネックス（本社大阪府）との共同事業で行います。

同社は、地域別の電話帳発行などを手掛けています。また、地域貢献事業として全国の自治体と協力して生活ガイドを進めています。市とは6月4日に協定書の調印式を行いました。

市は行政情報などを提供し、同社は編集、印刷、配布を行います。なお、経費は広告収入で賄うため、市の負担はありません。

今回は、A4版、約100ページで、発行部数は1,000部を、11月から12月にかけて市内全域に無料配布する予定です。

広告掲載についてのお問い合わせは、(株)サイネックス 姫路支店（電話079-2222-7630）まで、お願いいたします。



協定書の調印を終えた株式会社サイネックス代表取締役社長の村田吉優さん（右）と広瀬市長



今回発行する「暮らしの便利帳」の表紙

拝啓 市民の皆様

日本チームのワールドカップが終わりました。残念な結果になりましたが、日本イレブンの活躍は、久しぶりに爽やかな風を運んでくれました。

さて、7月3日、但馬夢テーブル委員会と但馬県民局が主催する「但馬地域夢会議」が日高文化体育館で開催され、私も出席して議論を聞いてまいりました。テーの一つに「将来帰って来なくなるのは、『やっぱり但馬』』というのがあり、高校生等から、「小さいときの楽しい遊びなどの思い出」、「一緒に遊んだ時の輝く親や大人は子供のあこがれ」という発言がありました。若者たちをふるさとに帰帰させるのは、都会の文化や職場だけではない、こういう美しく、温かな経験も大切だと思っています。

しかし、養父市でも人間関係は年々希薄になりつつあり、地域で子どもと大人が触れ合う機会も減少してきているのではないのでしょうか。スポーツやレクリエーション、ボランティア活動を通して、大人が子どもたちに養父市のすばらしさを伝えていく、その文化の復権を進めなければなりません。そういう意味もあって、今年から、市内の小中学校で「市長出前講座」を始めました。ささやかな取り組みですが、このまちの素晴らしさが少しでも伝えられたらと願っています。

市長 広瀬 栄